わゆる産業経済施策に就て申し

村 長

ば

博



えるに当り謹んで年頭の辞を申し 光輝ある昭和四十四年の新春を迎 明けまして御芽出度う御座います 親愛なる村民皆様 上げます。

見たのであります。 生安定とキメ細やかに計画実現を め各種機関団体は勿論村民こぞつ 八十周年記念の事業は村当局を始 即ち明治百年記念並びに村政執行 の業績を銘記する事が出来ます。 事柄が伺えるので行政施策上幾多 ろ輝かしい記念すべき年であつた が我が蓬田村にとつて見ればむし もに多事多難の年であつた訳です 顧みますと昨四十三年は国内外と ての盛り上りから産業経済教育民

きく我村将米百年の基本を明確に 憲章を制定宣言せられた事柄は大 制定然も村民一人~~の自覚と責 立殊に蓬田音頭の作曲振付、村章 業の急速処理更らに教育の面に於 の他災害対策及び一般農耕土木事 又県道完全ホ装海岸工事の進捗其 応せる不抜の基礎対策が約束され 備事業が行われ新農政の展望に即 は村内いたる処新規開田と木場整 め農協十万俵倉庫の落成、 ますと先づ、春以来の不順天候を した感激であります。 任を基盤とせる村造りのため村民 を始め玉松の献燈蓬田城趾の碑建 ては学校給食センターの建設運営 克服して見事に豊壌の出来秋を収 進んで

守るべく村対策協議会の発足と共 彰の栄に輝き且は交通の災害から と国保運営の実績は又厚生大臣表 協会の名誉ある表彰旗樹立の光栄 就いては多年念願とせる日本消防 もつて民心を安ずるに消防行政に せる等既に周知の事実であります 設の完成による万全の施策を強化 第二回農集電話と全村有線放送施 に末端組織に之れを及ぼし加えて 和楽の真に住みよい村造りに全情 う時深く御同情を申し上げますと さて家計上の御心配事など大変お の方針によつて明確に致しまし 部につきましては新年度予算編成 る次第であります。尤も構想の細 何卒村民各位の御協力を御願いす 済の成長と教育文化を高めて癒合 が健康で愉快に働き明るく豊かに く昭和四十四年は村民の一人へ 承まわれるよう切望するものであ 共に何にかと又御気軽に御相談を ままに不足の点も多かつた事と思 こまりの方々はないでしようか、 御正月の慶びの中に病床に伏る方 ならばまだ~~行政の浸透性に於 魂を傾注致す所存で御座います。 希望に満ちた生活を求めてより経 ります斯様な難点に立ちて明けゆ 万端の事柄に及べば身の至らない て幸せなものであつたでしようか

蓬田村公民舘報 門】 第62号 発 行 所 青森県東津軽郡 蓬田村公民館

印刷所 蟹田印刷所

でありましたがさて村民毎戸にそ を同慶に存ずるもので御座います 共に大きく黒字を以つて御報告出 すべき村財政面は明るく健全に運 あづかる者として其のもつとも正 ます。尚御約束の如く村の総てを と深く敬意を表する次第で御座い 各位の郷土愛に徹した御協力の賜 事は之れ一入に村議会を始め村民 して一人~~の身上に思いを致す 以上村政の大綱からは本当に安泰 来ましたので御安心を預けます事 営せられ年度決算も一般特別会計 放送は一月一日から開始する。 を決め、細部の運営は村理事者に の運営について協議会を開き六綱 大大 一任することにした。 台、広報を目的と−、村の出 口、放送範囲 緊急を要するもの。 ごと、災害救助、 部落連絡、行專通知、 二、放送内容 一、定時二、

ここに新年を心から御祝い申し上 すから御了承賜ります。 なく母くなくなくなくなくなくなくなくなくなくなくなくなく

七上割愛をさせて頂きま 致します。福を御祈り申し上げて年頭の辞と げ村民皆様の御健康と弥栄の御幸

紙面の

線 放 送運営に

方式による有線放送が開通し、そ 客年十一月三十日屋外スピーカー 臨時 行政指導、 その他 緊急

(3)

緊急放送

の行事

口、行

八、部落行政

(部落全体

イ、行

流行 臨時放送

通指

知導

口、行 イ、行

定時放送

通指

知導

п,

(

急事火

害病故災指

(三、時間帯

イ、行

政

朝 夜 昼 朝 夜 昼 一、定時放送

【写真……有線放送 の初放送】 十二時~ 十二時~ 十一月~三月 七時~ 七時~ 六時~ 四時し 四月~十月 三〇分 三〇分 三〇分 三〇分 三〇分 三〇分

蓬 H 民憲章制定さる

村制施行八十周年記念式典に於て 一月二十三日、 明治百年記念祝典

2、制定起草準備委員会 (別表の させ村憲章制定することになった ようという声が高まり記念事業の 民憲章というようなものを制定し き規模を定めることの必要から村 けた情操豊な文化人として平和な その中で、蓬田村民が新しい時代 計画予算等審議しました。 村民生活を樹立するため、村民の にふさわしい感覚と教養を身につ 明治百年記念事業を実施するに当 「道しるべ」として村民のよるべ 環として別に起草委員会を発足 推進実行委員会を設立し実施 村民憲章の制定の動機

門

各界代表及び学織経験者の構成に

民館事務局 員会を設置(委員数及び選考田公 領等を審議し、さらに起草実行委 を確認し、憲章の名称及び作成要 草委員会に切り替え、制定の可決 よる、準備委員会が開催され即起 一任)審議することに よう 助けあら明るい村をつくりまし

3、起草実行委員会(別表の通り) 名称等を審議、 更に二十数頃目に分類し文案及び 委員会で出された内容に基づき、 任された起草実行委員会は、先の 主として制定起草委員の中から選 定起草委員会が開催され、 制定会議 起草案の作成がな ⑦交通法規をよく守りましよう

第 62 分

三年十一月二十三日明治百年記念 れるに至った。こうして昭和四十 典において蓬田村民憲章の制定が 発表され、告示されたのである。 祝典、町村制施行八十週年記念式 案を審議のうえ制定が正式決定さ

蓬 田 民 章

つとめましよう すみよい、蓬田村をつくることに 章をかかげて明るい、ゆたかな、 ことに誇りと責住を感じ、この憲 神を尊重し、蓬田村の村民である 、なんでも話しあい、 わたくしたちは伝統ある玉松精 たがいに

(2)隣り近所はおたがいに親しみ 山広く話し合いの場をつくり、 助けあいましよう 相手の話をよく聞きましよう

(6)公衆道徳を高め、公共の施設 施設へ老人ホームや児童の遊(3)老人や子供をいたわり、その (5)礼儀作法を重んじ、言葉づか (4)きまりのよい生活をし、 を大切にしましよう の時間を守りましよう いに気をつけましよう び場)をつくりましよう

一協力しましよ

くりましよう

、げんきで働き、 (2)家庭の民主化につとめ、 (4)子どもの健全な育成につとめ (3)家庭の行事を大切にし (1)心身の健康を保持増進するく ゆたかな村をつくりましよう ましよう 相互で協力しましよう 高めましよう しよう ふうをしましよう

(7)科学技術を重んじ、 (6)仕事の合理化と能率化を図り (5)日常生活にスポーツやレクレ ましよう ーションをとりいれましよう 生産を高め経済をゆたかにし

、こころから郷土を愛しすすん (2)郷土にふさわしい衣食住の改 (3)教育施設を拡充し、 ですみよい村をつくりましよう を充実しましよう 善につとめましよう につとめましよう 学校教育

住みよい

長

短

(8)玉松公園の草木を大切にし海 (7)環境衛生(カやはえの駆除等) 6)文化活動を盛んにしましよう ⑤学校と家庭と社会の提けい協 力を強めましよう 振興につとめましよう につとめましよう や公衆衛生(伝染病予防等)

昭和四十三年十一月二十三日制定 加文化的生活を高めるくふうし (9)道路や下水の清掃につとめま すみよい家庭や社会環境をつ 水浴場をきれいにしましよう うにし、各項目 独立した意味を 円的に広がりな 図のように同心 生活基盤を家庭 の後段で村民の もたせるととも から郷土まで下 な関連をもつと に、互に有機的 もたせて表現

(9公私それぞれサー 楽しい家庭と ビス精神を . 村 基 村民憲章の構造 本 民

的 憲 章 ts 考 起

え 草

方 0

+ 村のビジョンと てとらえ、蓬田 文化性という四 像を健康性、生 ましい近代村民 ツの源資質とし 産性、道徳性、

協調性、親切、努力性、 文化性、生活安定性に富 ニ不良化が少い

自主

積極性、社会道徳、創造性、

性、科学性、合理性に乏しい

創造開発 した。 れに分類し三項 その語源ともつ い、ゆたかな、 目にしぼり明る 十二項からなる 内容を探究し一 語を生みそれぞ

その を織込んだもの らに蓬田村の長 すみよい、村民 色や種々な課題 所、 性をえがき、さ

である。 し、蓬田村の特 短所を究明

(2)この憲章は、

各項目それぞれ

(4)社会教育施設を充実し、

村民像 健康性 生產性 道徳性 文化性 村民性 康、道し合い 人、親愛、隣人愛 徳、個 明るい 生産、 開発 科学、創造、(大館精神)、 経済、協同 ゆたかな 文 化、調 和、政 治、社 郷土愛、玉松精神、奉仕 会、歷史性

郷土受、 素直さ、 んでおる

長

所 短

所

,	郷	な	かる	3
/	×//	明る	1) 1	3
	関し	- 130 A. A.	な選り	
1	× 34	楽り財	12	*/
,	1 3	J	5	

(1)この憲章は、各項目ごとに前般二、村民憲章の表現方式 方をのべ後段に、こうした村民生 に村民個々の望ましい生活の在り 活をすることによって、私たちの

(1)この憲章は、蓬田村民として望

(五ページへ続く)

【写真……

		-	-						_
部落別	職名	裘	彩	者	名	本	人及で	ド遺	疾名
長 科	助役	坂	本	筱-	一郎	坂	本	盛	-
蓬田	"	T.	舽	慎-	-DB	D	藤	政	光
広 瀬	"	161	中	喜	八	[1]	中		TI
1	"	Ш	崎	==	郎	111	崎	曹豐	松
長 科	"	張	[[1]]·	音	古			_12.	1
阿弥陀川	1	- 6		-			<u> </u>		_
PHYSEM	,	倉	谷	松	恵	-4	<u> </u>		_
長 科	収入役	坂	水	甚:	三郎	坂	木	祐	
瀬辺地	0	木	村	福	松	木	村		樂
阿弥陀川	"	III	谷	徳	蔵	Щ	谷	俊	旭
長 科	"	I		第右-		I	藤	1	15
蓬 田	"	1	松	清	助	小	松	4	ヤ
阿弥陀川	"	Л	F		欠郎				
La Sance (1)		//	<i>F</i>	启	(II)		k	,	_
瀬 辺 地	県識会議員 農協組合長	小	野	清	七	7	*	,	٨.
蓬 田	村議会議長	清	水	専	造	7	k		1
中沢中	村議会議員	吉	田	ter i	兵衛		(清		名)
				550		古	田田		天 律
瀬 辺 地阿弥陀川	"	越八八	田戸	宋	次郎 助	越		実改	
4 301	"	24	-		25	八	戸	倉	助
		稲		郎	2.11	稲	葉	チー	七山
		坂	本	竹	松	坂	本	万万	
瀬辺地	"	山	館		四郎	Ш	館	誠	5/
蓬田	"	田	中		欠郎	田	中		薄
広 瀬	"	H	中	丑:	松	田	中	-	胡
瀬辺地	"	H	中	孫	八	HI	中	栄	蓐
"	"	久	慈	勇	丈	久	慈	牛	サ
"	"	Ш	館	清	-	Ш	館	清	岡
阿弥陀川	"	八	戸	倉	助	7	*	,	1
"	"	森		孫	太郎			,	
蓬 田	"	吉	崎	慶	欠郎	"			
長 科	1	松		倉	五郎	"			
阿弥陀川	"	倉	谷	-	太郎			,	
"	"	八	戸	要	助			,	
郷 沢	"	大	宮	金	助			,	
瀬辺地	"	山山	П	与	八			,	7
NA CE CE		144	(-4	J.	/ \				
瀬辺地		久	慈	政	古	久	慈	+	サ
広 瀬	学務委員	越	田	長	五郎	越	田	豊	光
長 科	"	藤	本		蔵	藤	本	カ	v
高根	"	稲	葉		太郎	稲	葉		大郎
阿弥陀川	,	八	戸	源	助	八	戸		息
		/\		735-1	4577	11		-	- 19

明治百年記念祝典

昭和44年1月1日【水曜日】

町村制施行80周年記念式典挙行11月23日蓬中に於て

四十三年四月から明治百年記念行事推進委員会を設置記念行事を行つてよた。

その総しめくくりとして記念祝典を催し村内外から百余 名の参列を得て盛大に挙行された。

折りよく村憲章起草が制立し制定宜言がなされ自治教育 功労者の表彰及び感謝状が贈られ、清水専造長老が明治 の思い出話に花が咲き盛会裡に慕を閉じた。





部落别雕 名 表 彰 者 名 本人及び遺族名 沢 長 坂 本 与 作 坂 本 大 博 阿弥陀川 戸 弥太郎 八 戸 信 瀬 小 畑 兵 治 小 畑 清 沢 本義徹 H 木 三次郎 青 木 三千郎 坂 科 " 本喜三郎 坂 本 英 雄 阿弥陀川 森 藤八 秀 沢 本 種 一 坂 本 大 博 阿弥陀川 11 戸 専九郎 戸 行 " 田中吉松 H 武 井 巳之吉 本

第 62 号

部	落	名	職名	表	彰	者	名	本人及び遺族名				
中		沢	村議会議員 の 他		本	卯之	と助	坂	本	亀	雄	
	"		"	坂	本	隆	綱	1 7	本		Λ_	
	"		"	坂	本	貞_	教			,		
長		科	"	張	間	周フ	大郎			,		
	"		"	坂	本	_	憩	坂	本	祐	_	
	"		"	坂	本	孫カ	北郎	本 人			_	
広		瀬	"	天	内	岩岩	定部			,		
	"		"	田	中	_吉見	兵衛_	"				
	1		"	田	中	吉	大郎	田	中市	吉右:	- [
高		根	"	久	慈	仁	三郎	久	慈	寛	_	
	"		"	林	崎	仁	助	八	懈	邦	烟	
	"		"	小里	予寺	孫	_作_	本			人_	
葡	辺	甁	行政連絡員	北	Ш	健	Ξ	7	杠	,	Λ_	
			功労表彰	張	間	謙	吉			-		
広		瀬		田	中	古兵	兵衛	田	(日本中	之松己 吉見	女名 兵衛	
阿引	尔隆	Ш		佐	藤	琢	法	佐	藤	奐	領	
	,			八	戸	宥-	一郎	八	戸	清	_	
				相	坂	国	松					
				鈴	木	繁力	大郎			~,		
			1.	工	成	文	吾	<u>.</u>				
	_		<u> </u>	青森	十木	事務	所長			١.		
青森保線区長												
		青森電話局長 青森海岸事麼所 海岸出張所長										
		- 3		青和	年 年 県 計 に に に に に に に に に に に に に	上地引	女良			,		

部落名	職名	表	彰	者	名	本	、及び	ド遺カ	矣名
広 瀬	学校長	高	松	勇	蔵	高	松	みの	つる
阿弥陀川	"	森		光	秀	2	×	,	(
蓬 田	"	田	中		薫		4	,	
中 沢	"	坂	本	勝っ	た郎	坂	本		基
村 外	"	沢	谷	Ξ	郎	7	×	,	
	"	溝	江	紀	_	"			
"	"	八	田	勝	郎	"		1	
"	分校主任	佐	藤	圧	_	佐	藤	そ	め
瀬辺地	区 長	久	慈	寅五	丘郎	久	慈	牛	#
中 沢	"	吉	田	勘ス	大郎	吉	田	繁	雄
広 瀬	"	越	田	申	松	越	田	兼フ	比郎
郷 沢	方面委員 民生委員	高	田	平元	と助	高	田	隆	広
阿弥陀川	"	八	戸	\equiv	郎	本 人			
蓬 田	消防組頭	中	村	賢っ	た郎	中	村	賢	逸
瀬辺地	"	越	田	源	治	本人			
長 科	消防団長	坂	本	茂	雄	本		人	
瀬辺地	"	越	田	由フ	た郎	越	田	由	
瀬辺地	村議会議員 その他	飯	田	元	吉	飯	田	伊	. —
郷沢	"	福	井	字	吉	福	井	·	衛
"	"	福	井	音》	次郎	福	井	亀力	大郎
蓬 田	"	武	井	永	蔵	武	井	已之	Z吉
"	"	田	中	福	蔵	田	中		蘓
郷沢	. // .4	高	田	長沙	は郎	. 4	Z	- 1	

級 開 設 3

る

フイルムフォーラムを行つた 日程等を協議決定し、同時に 十五名にて今後の学習課題、 十二月一日蓬田中学校にて婦 人学級開講式開催、学級生三

中学校にて学校給食センター第二回の学習は同じく、蓬田 料理(酢豚など)の学習を行 森栄養士を講師としてお正月

いました。

THE PERSON OF TH 月 分 中中 ンペイン

注

意

数

石と青森放送局長、営業部

われました。

とに種々有意義な懇談が行な 長、ほか局関係職員出席のも

NHK聽視者各階層代表者十

一月二十五日役場において

NHK聴視者懇談会開催さる

生 同には貸格をもたないで税 談などを行ないます。しかし よつて、税務書類の作成や相 です。そして納税者の依頼に た。玩務に関する民間の専門家 税型士は、一定の資格をもつ 上の仕事をしている、 いよう、

のない「にせ税理士」に頼ん他人に依頼するときは、資格 税金に関する、大切な仕事を られます。 ゆる「にせ税理士」が見受け で損害や迷惑を受けることの 注意が必要です。

社教課上田治先生、県社教指,教育事務所佐藤芳男先生、県 開催、講師助言者として東青 三回子ども会世話人研修会を 導員野倉かめよ先生を迎え、 十二月二日蓬田中学校にて第 した。 動につい 世話人との関係及び役割につ 動について」研究協議されまいて」「今後の子ども会の活 の関係について二「育成会と 「学校の校外班と子ども会と て 研究協議され

協議会が発足することになり 催し蓬田村子ども会育成連絡 決定十二月四日結成総会を開 開催満場一致で結成すべしと 子ども会世話人研修会開催さる ______

ました。役員は次の通り決定 副会長 4 11 事 八坂武坂小 本井本猿 邦増キ ii 雄吉ノ登雄

連絡協議会結成準備委員会を十一月二十五日小ども会育成 子ども会育成連絡協議会結成さる 蓬

[5 1

潔な表現をして、

だれでも理解さ

(2)、この憲章は、 に協力するよう呼びかけ ており 住む蓬田村がどのようになるかを 示し、すすんでよりよい村づくり 平易でしかも簡 村

(ニページより)

重はありません。 (4)、この憲章は、 | ……1 | …… | 三 の配列等文章の形式を一定して、 味しました。 全体的な調和を考えました。 (3)、この憲章は、各項ごとに品詞 れるようにして、さらに一層深いの順予によらず一...... 意味を読みとれるように用語を吟と並列し、 各項目の間に軽

藤田修一、武井健一、山舘建、武 藤田尚政、松本順一、古川あさ子 八幡邦雄、 和夫、八戸喜代四、真土唯一、坂勇、類地徳勇、楼田正三郎、鎌田 喜代作、飯田岩吉、天内岩五郎、 勇、森係太郎、津島源之助、加藤 さ、坂本増吉、松本倉五郎、張間 江、坂本とこ、武井きの、小野し 本毅、蝦名敬、島中徳幸、 四郎、森光秀、 坂本孫九郎、越田長太郎、佐井幸 坂本大博、田中一雄、 高田兼三郎、森初男、 高坂常雄、 久慈寛一、千葉琢 山舘誠弘、 清水専造、 八戸倉次郎 、坂本清

(順不同) 七、山口与八、坂本登、高田利四郎、飯田伝次郎、 佐藤良子、佐井かつ子、坂本豊道

憲章起草多負名

村憲章 起草実行委員名

員 坂藤真八鎌桜類千森田坂坂 中本本 琢光 大豊 徳 勇 勇 秀 雄博道

委

本田土戸田田地葉 喜代四 夫郎

昭

豊

のである云々……。 とまに合わぬこともある。 りパスが十日も前から予約しない に出るそのシーズンになると貸切 テレビなどはない家庭が珍らしい テレビ、洗濯機、冷蔵庫、掃除機 どん家庭に入るようになつた。 はぐんぐん伸びている。 農村の神武景気を如実に物語るも 望経済成長の波に乗つて電機製品 おまけに農閑期になると慰安旅行 「農村でも」近頃電気器具がどん 三十八年十月朝日新聞経済展 農村を問わずどこの家庭にも くと下積な暗い生活をしておれば

化にも恵まれず、毎日/\あくせ ら暗くなるまで働き、経済にも文 逆を云へば百姓などは暗いうちか の抵抗と憤りを感じた。 なにか小馬鹿にされたようで最大 してきたとしか受け止めがたい。 機械をとり入れぜいたくな生活を せば「農家でも」近頃便利な機具 作者の意図するところは、裏を返 市なみの文化生活を営むようにな 電化品が入り経済の谷間を埋め都 つたとなら一寸戴ける節もあるが 「農村でも」に問題点がある。

> 用語であろう。 発言内容だと思われるし、 識を逸した意外な出来ごとを表す も」「彼でも」「あの人でもなア とには間違いない。 と一言もないのかしら?。 ー」その「でも」のもつ意味は常 の殆どが外国語よりは絶対強いこ 豊水がヘソ曲りだからと云われる よいのかと云いたい。 でも」「議員でも」「村長でも. 「学校の先生でも」「公民舘長で 国語に弱いと云われても国民 観念的

> > 講堂で、

そんなに云うことをきかないと百 姓にやるぞ!!」と云うそうだ。 云うことをきかないと、 ▲ 東京では乞食の家庭の子供が がつくと思われる。 そうなるとヘソ曲りかどうか判断 釈される。 言葉や行動を表現するものだと解「でも」なる用語は身分不相応な 「お前が

八戸良子 芳賀長 づかしくない。

それを破壊しようとする大きな浪 だがあんのんとしてはおれない、

が押し寄せて来ておる。 「とるな」「価を下げる」と云つ

過去の正处は如何に卑しめされ、 となられるそうだ。

みじめであつたかは理解するにむ 守る冷蔵庫も入り喜こばしいこと 力を省く洗濯機、食生活の衛生を て、テレビをみる時間、婦人の労 生産技術と米価にささえられ

政府は「米が余つた」「買わない」

あいてながめながら………。 云うことをきかない子が百姓にさ黙つておると乞食が云つたように かたちで進んでおるか大きな目を 押しよせてきている大波がどんな たやかたが築かれるであろう。 これをつき抜けることこそ安定し 上る外途はあるまい。 自らの生活を守るには自らが立ち 力を結集して対処すべきである。 今や農村の老人も青年も心を合せ れかねないかも知れない。

(一九六八、一二、

和四十三年度 女子青年建設班

開 講 式 開

<

それぞれ四十四年三月藤彦津二 多数が出席して行われ 藤恵津子、青森市、が東郡蟹田町、編物、佐 和洋装編物講師は、和 班第八回目の開講式が このほど旧蓬田小学校 蓬田村女子青年建設 坂本村長ほか 野藤絹江 東郡蟹

田町、洋裁、 裁、鈴木貞子、

的研修日程は後日決定 う予定として

おり具体 修は四十四年二月に行 女子有年建設班合宿研 【写真……開講された

女子青年建設班】

又、運転手が車をモタ/〜さして

どこの百姓

い健 ボール 恵子

一郎郎博也作一

和 四 干三 一年度

工小三武武佐

藤松上井井藤

推身郎重子子

清三

福福久久木天武田

竹末登竹弥岩貞喜

郎蔵雄雄八郎郎郎

和良あい子

次太八

勝 真津 理恵 務 巳 子

世

勇七悦良

八元三勝

治四

沢 か

0

英修

ろしく、 す。 名簿もれの方でも当日会場の方へ 上げまし なお服装などはふだんのまゝでよ 心からお喜び申し上げます。目出度く成人になられました。 住民票により名簿作成しまし 名簿該当者次の通り 別記の通りお祝いの式を行ないま 工横藤坂坂坂坂坂藤吉山 越し下さるようお願い致します 皆さんはすこやかに成長され、 全員お気軽に出席して下さい 藤山田本本本本本田田谷 案内は別葉で御通知申し 健 う広 美 永 佳 俊 博 め 大 太 慈 秋 子 一子 佳 芳郎 慈 秋 子 正久定大年金三三貞喜勘太五 上上四代太孝孝四代太 世帯主 一郎松郎

武山木武津中吉木細細武青小古 笠 井本村井島村崎村谷谷井木原川 藤藤森森森森八古青青青森森森青八森森倉弥 藤室 陀川 本谷 本本 戸川木木木 木戸 田 日日光静照松出出 うめ子 則文む朝 恵愛時 栄 邦 八昭雄政年悦 修誠京啓京 六江子昇子

丸秋夫予子司道

兼兼岩照武エと糟与忠石与喜千 五太 \equiv 太三 郎吉郎郎雄スら蔵郎蔵郎郎一郎

第 62 号

藤藤張工藤三松松坂三

本本間藤本浦本本本浦

勇 好 幾

塩ま

郎さ

勇

マ憲安照富万栄 サ 美 子和子慈義蔵子

正俊清松卜英辰

信正光雄シ夫海

兼兼光清千勝春多末慶定正謙源巳一繁春平 力千 代 一之 太太 兵

郎郎衛一吉美海衛吉作雄光一郎吉郎夫雄郎

衛芳

午後村から出てきて新城、荒川、 東岳と青森市近郊農村のビニー いるボックスに集まつてきた。 いつとはなしに、わたしのかけて てまわつたのだという。 ハウスの経営などをグルーブでみ

福福福中高小福高加高高福福大 県教育公報 辺 くるとうとうとうとうとう 田井田川田川井田藤田田井田宮 中 セ " 昇雄志信子修保男子代吉保江子 子 武寅専卯賢秀石長喜三種岩福正 之三 次代 太次 郎郎一吉郎作蔵郎作雄雄蔵蔵一 佐柿田柿小

大山山川山田木田飯山山越木 奈 葛木 越 阪 舘 舘 田 舘 中 村 中 田 舘 舘 田 戸 岡 西 村 田 登成君光 五正弘 ヂ 十 エ忍一 子江志 子子仁子悦子憲雄

久 永 佐 福 慈 清 文 海 国清勇円義伝誠武助厚 勇喜丑由清 次 太 治代太 清 次 郎作郎雄実 松剛三郎春郎弘雄郎生彦 雄作

> 上 沢

悦

子

雄

菊八佐

清多た

巳市み

根

次

ル げ悟ョ

行

一戸あたりの水田耕作が二へクタールになるのもそんなに時間のかからない話となつた。米作農業の出かせぎや、青森市依存の経済から解放され自立することも約束されるであろう。地味ではあるがされるであろう。 が目標となつているから将来は

(ものもうす らんより W

ずの女の子が七八人まじつている かに寄つてきたのが多いから車中りこんだ。たいてい勤め帰りどこ のだがある夜青森発の津軽線に乗めつたに終列車に乗ることはない と、その中に三四年前卒業したは は花やいだふんいきになつている ル **積一戸平均一へクタール余、区画村は単作地帯ではあるが、耕作面そういえば、わたしの勤めている** ずの車中をおゝいに気分をよくし 識をふりかざし彼女たちと意気投そんなに貯えもない農業問題の知 誇りと自信を持つている娘たちだ ずらしくも農業後継者たることに ts て油川駅に下車した。 合したわたしは、わずか十分たら のたいていは、中学校卒業だが、 かには高校卒もいていまどきめ までなされている。

となつて、村づくりにたくましくとなつて、村づくりにたくましく

とりくんでいる。

を学ぶべきであろう。 村の事実から生まれつつあること つている。こんな事実も、 こんな村から、こんな娘たちが 中学校教諭 中正太郎 こん 75

行なつた。来年は一一七ヘクター また昨年から開田も行なわれ四七 クタールが今秋新しく稲刈りを ところ、 2 ∹ 3 記念撮影 大人と語る(座談会) 記念のおはなし 蓬田村女子建設班教室 月十五日午前十時